Arcserve RHA*を使ってローカルアカウントのACLをレプリケーションする方法**

ワークグループ環境でのファイルサーバ 可用性向上

Rev 1.2

* 本資料ではArcserve Replication/High Availabilityの略称として「Arcserve RHA」と表記します。

** 本資料はワークグループ環境での利用を想定しています。Active Directory ドメインのメンバーサーバ間のレプリケーションでは、初期設定のままでドメインアカウントのACLがレプリケーションされるため、本資料の手順を踏んでいただく必要はありません。

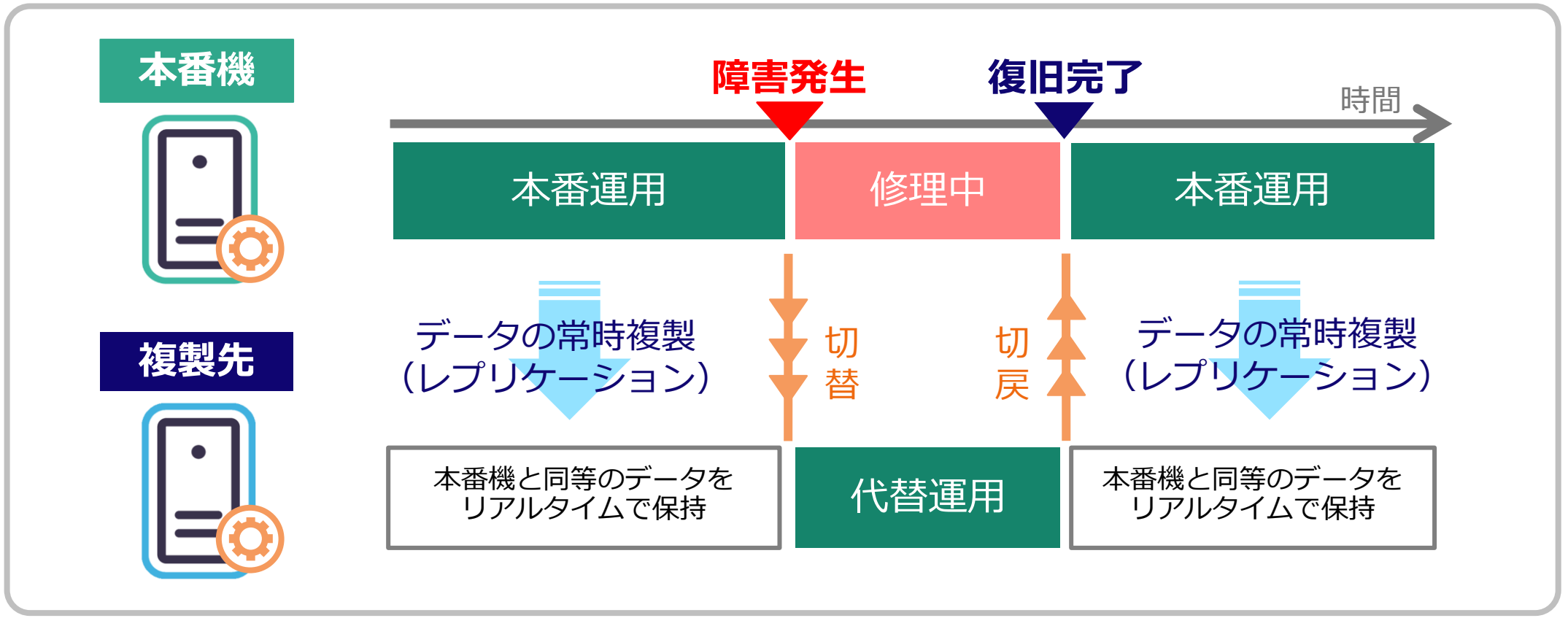
arcserve®

© 2024 Arcserve. All rights reserved

アクセス権 (Access Control List) のレプリケーション

こんな時に使えます！

➔ ファイルサーバの障害時にはレプリカを代わりに使いたい
➔ ファイルサーバはActive Directoryドメインに参加していない



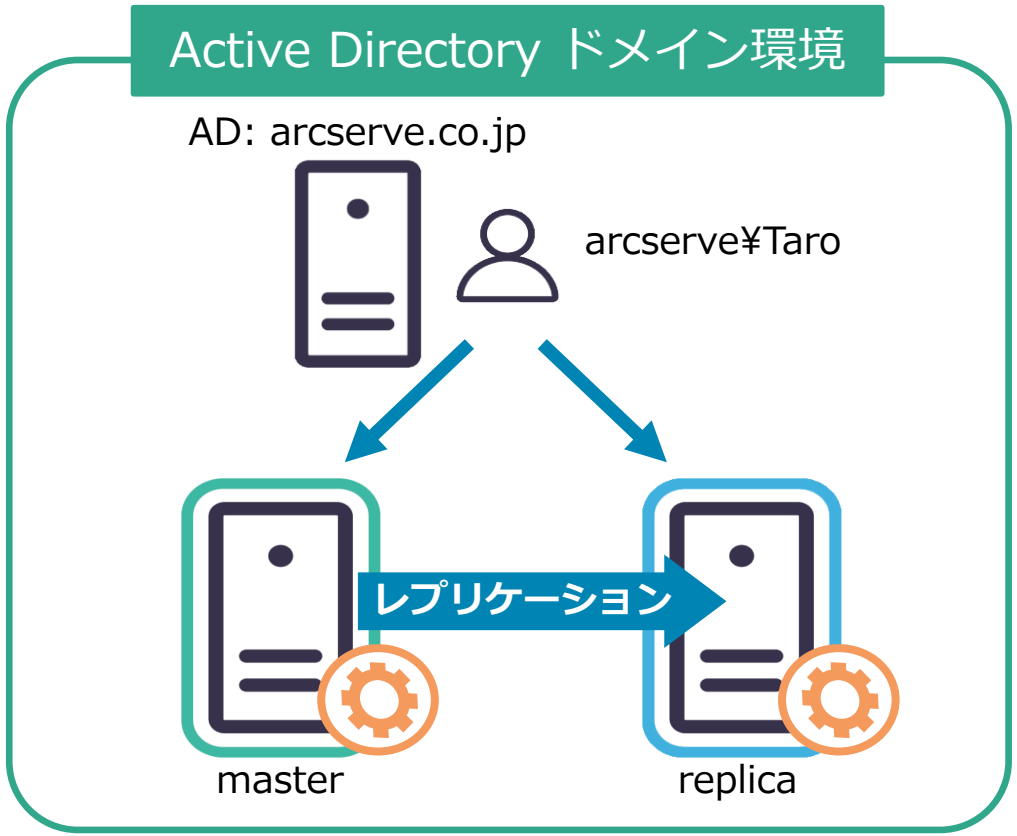
arcserve®

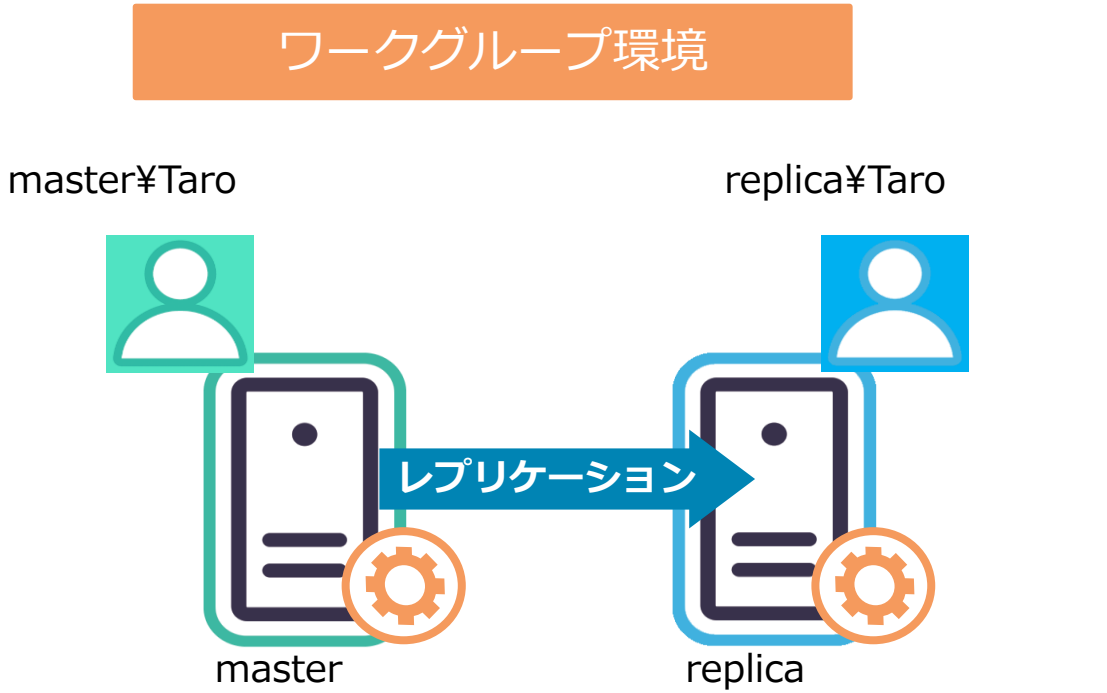
© 2024 Arcserve. All rights reserved

ワークグループ環境でのアクセス権

ワークグループ環境でも、ファイル/フォルダのアクセス権をレプリケーションできる

➔障害時にもすぐに必要なファイルにアクセスできる！





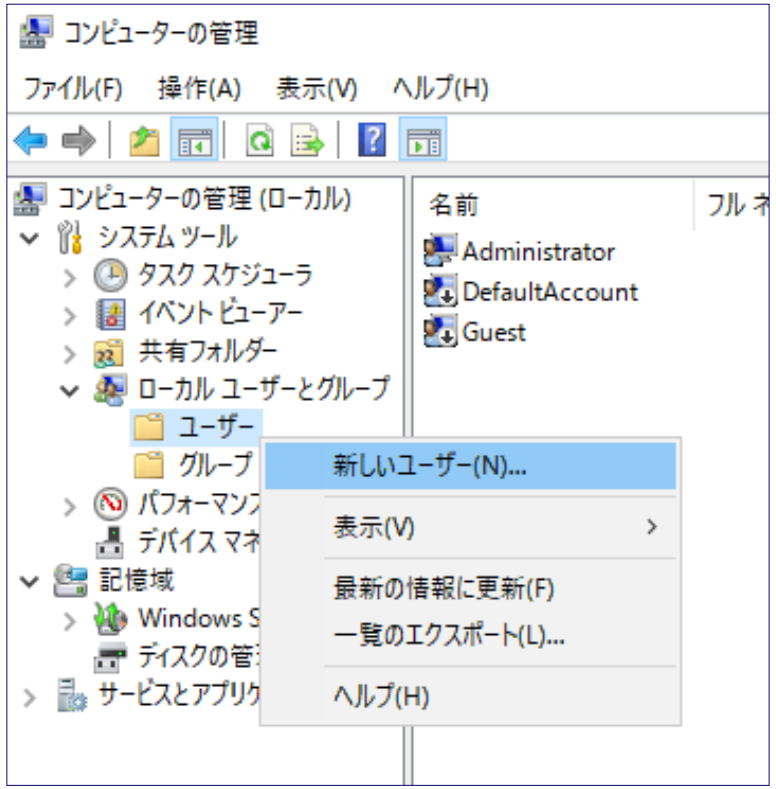
※ ワークグループ環境ではシナリオ開始前に、同名のアカウントをレプリカに作成しておくなどの手順必要です。

© 2024 Arcserve. All rights reserved

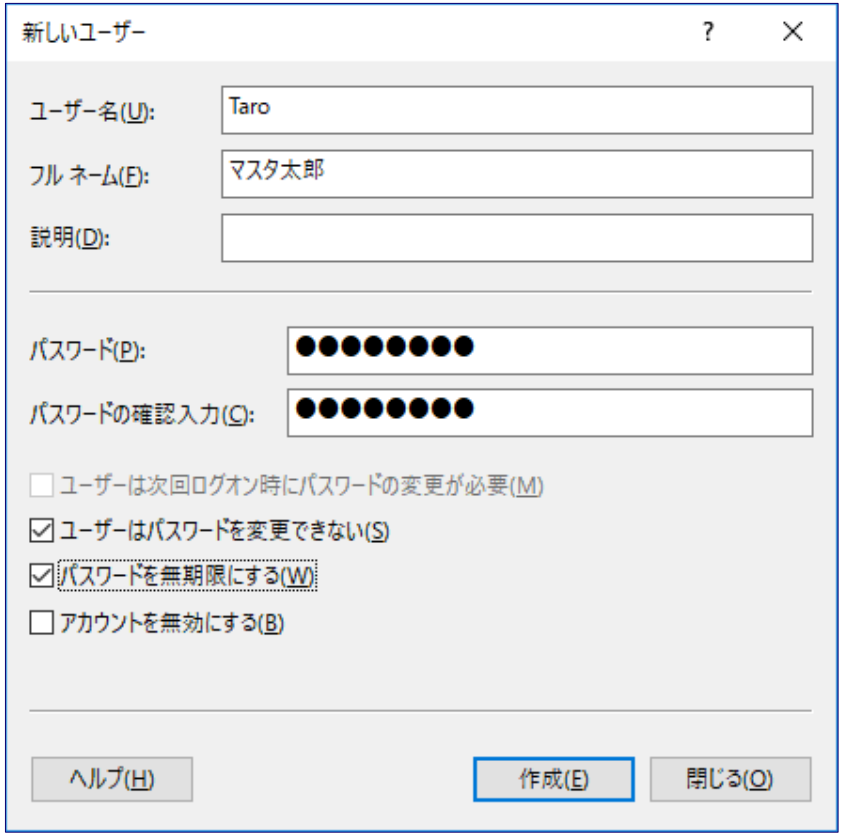
Step 1： レプリカにマスタと同名のアカウントを作成

1. **レプリカ サーバにログインし、マスタ サーバに存在するローカル アカウント（ローカルユーザーとローカルグループ）と同名/同パスワードのアカウントを作成します。**

   ※ 大文字/小文字も揃えて入力します。



2. **マスタサーバでローカルグループを使用している場合は、レプリカでも同じようにグループにユーザーを割り当てます（所属させます）。**

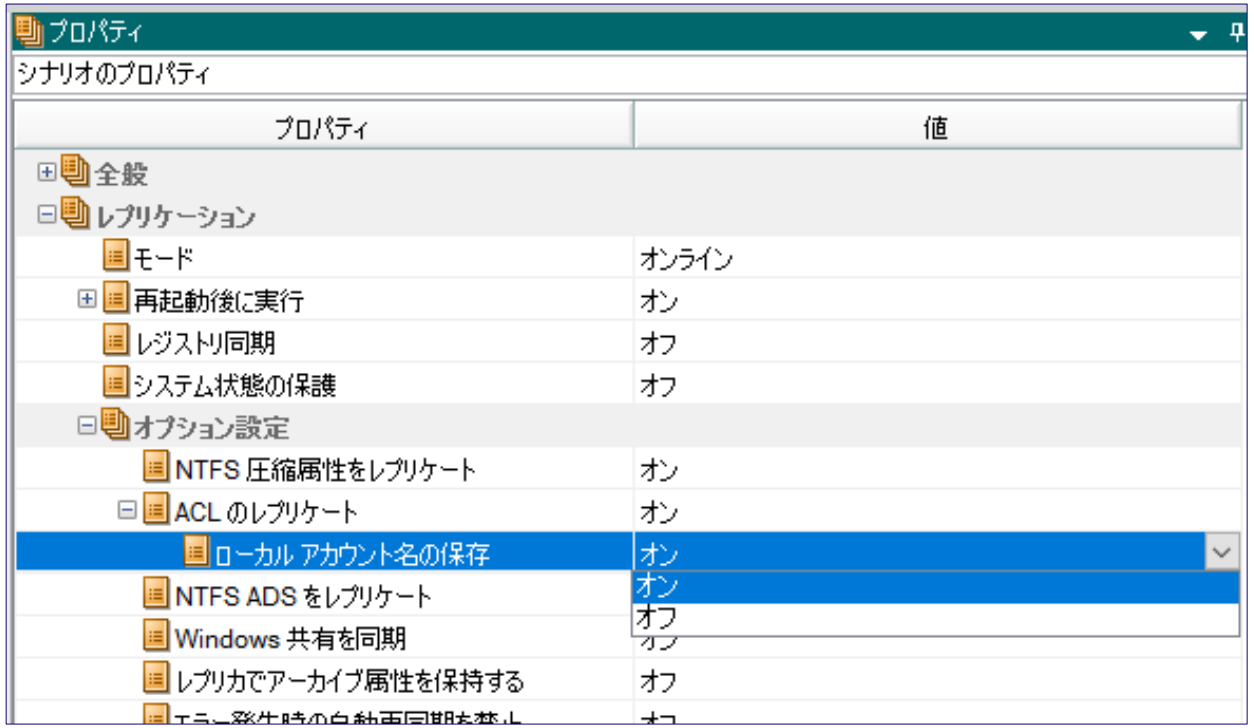


arcserve®

© 2024 Arcserve. All rights reserved

Step 2： シナリオ プロパティを設定

1. シナリオが停止していることを確認した上で、シナリオプロパティの[レプリケーション]-[オプション設定]-[ACLのレプリケート]-[ローカル アカウントの保存]を[オン]にします。



2. 設定を保存してシナリオを実行するとレプリカサーバにACLが反映されます。

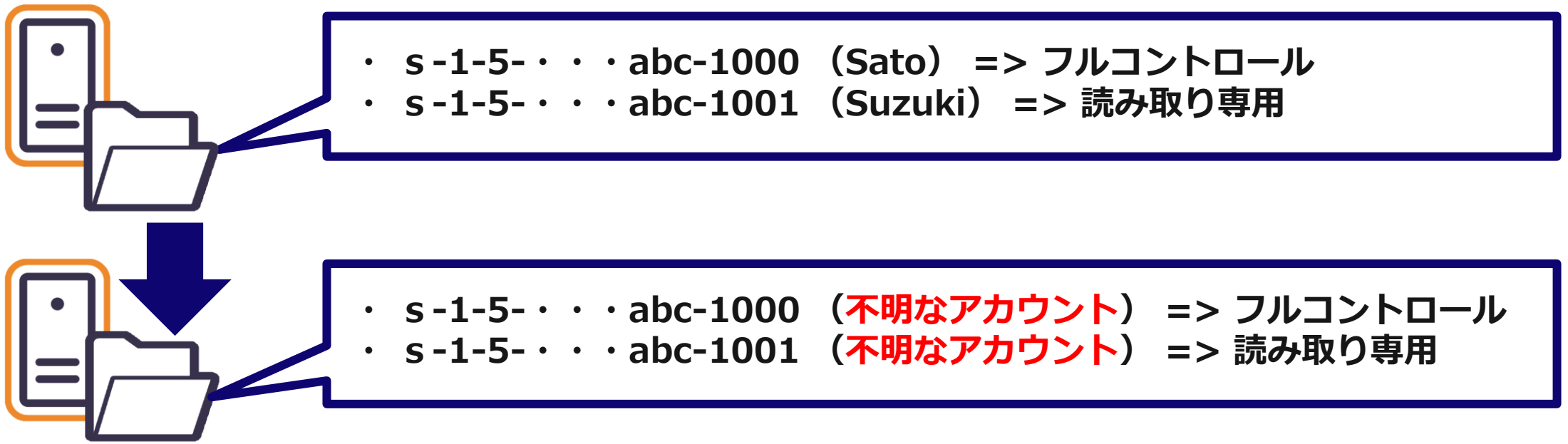
※ 設定変更後、初めての同期処理ではACLを反映させるために通常以上に時間がかかることがありますのでご注意ください。

arcserve®

© 2024 Arcserve. All rights reserved

<参考> ローカルアカウントのACLレプリケーションの仕組み

ローカルアカウントのACLレプリケーションを設定しない場合(SIDベースのACLレプリケーション)



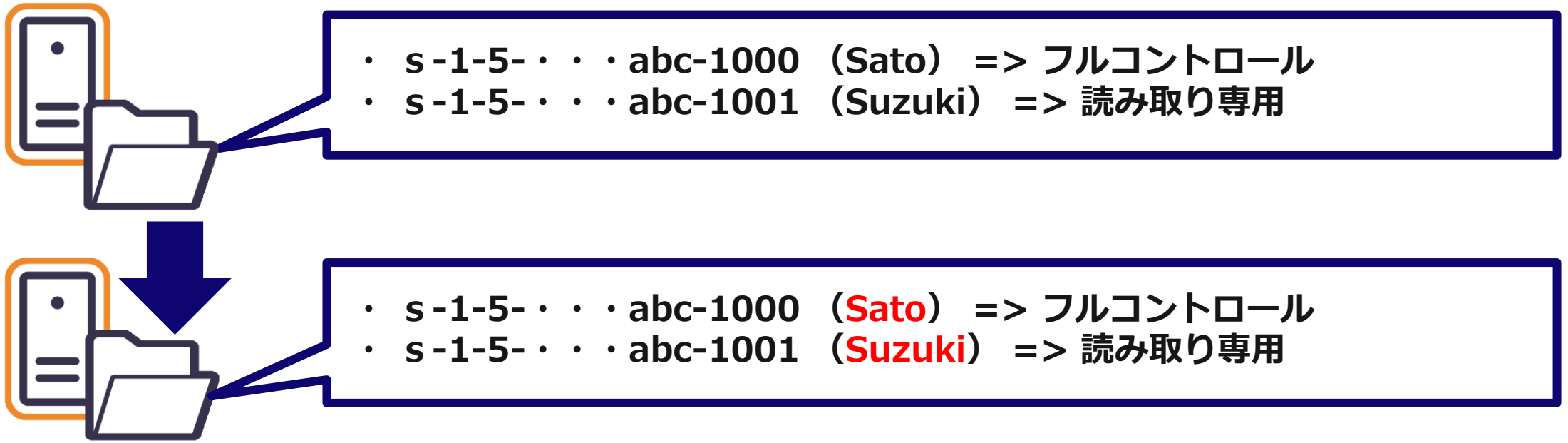
初期設定ではSIDに紐づけられたアクセス権をレプリケーションする。しかし、ローカルアカウントのSIDはサーバごとに異なり、レプリカにはマスタと同じSIDを持ったアカウントが存在しない。そのため、たとえ同名のアカウントをレプリカに作ったとしても、レプリカのフォルダにアクセスする事はできない。

arcserve®

© 2024 Arcserve. All rights reserved

<参考> ローカルアカウントのACLレプリケーションの仕組み

ローカルアカウントのACLレプリケーションを設定しない場合(SIDベースのACLレプリケーション)



[ローカル アカウントの保存]を[オン]にすると、Arcserve RHAはレプリカサーバのローカルアカウントを検索し、同じ名前のアカウントにアクセス権を割り当てるようになる。そのため、同名のアカウントはマスタと同じ権限でフォルダにアクセスできる。

© 2024 Arcserve. All rights reserved